

第3期西興部村まち・ひと・しごと創生総合戦略

西興部村役場企画総務課

はじめに

西興部村は、オホーツク総合振興局管内の北西端、オホーツク海から約20kmの内陸に位置しています。

村の面積は約308.08km²で、総面積の9割を森林が占めています。平坦地が極めて少なく、興部川・藻興部川沿いに帯状に緩傾斜の低地があり、そこに市街地が形成されています。他の大部分は標高400mほどの丘陵性山地の地形となっています。

気候は、オホーツク海気圧の影響を受けて、低温不順で年平均気温は6.7度、年平均降水量906.3mm、年平均降雪量454.6cm、最深積雪102.6cm、夏は海流の影響を受け濃霧を見ることもあり、長期の低温が多い地域です。

西興部村の中心的な産業は酪農で、13戸の酪農家が乳牛を飼育しています。家畜糞尿の処理が大きな課題でありましたが、糞尿を資源としたバイオガスによる300kwhの発電や消化液の農地還元、再生敷料の活用など循環型酪農の実現により、水質汚染や臭気対策などの環境保全や酪農家の糞尿処理の負担軽減、新たな雇用の創出など、地域の活性化にも結びついています。



瀬戸牛峠から見た村の街並み

西興部村の人口推計と戦略

本村の人口は1935（昭和10）年の4,867人をピークに減少が続き、2020（令和2）年には1,053人まで減少し、ピーク時の人口の3割を切っています。

国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の2023（令和5）年推計によると、2050（令和32）年には745人となり、2020（令和2）年から約30%減少すると推計されています。

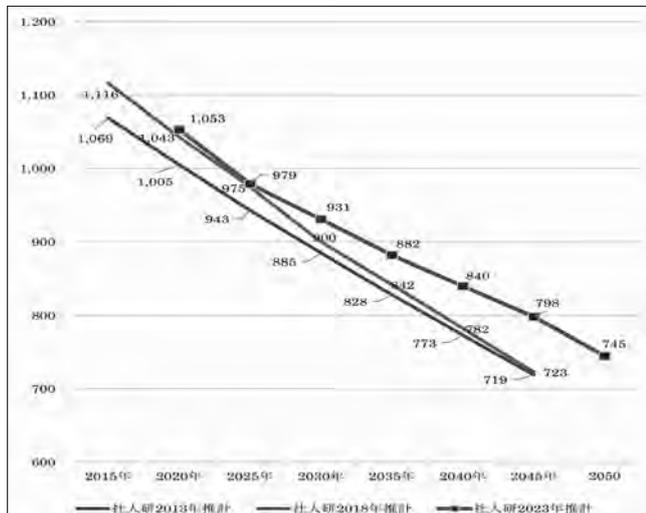
本村の人口減少は、転出者数が転入者数を上回る社会減と少子高齢化を背景とした人口減少数に占める自然減の割合が高くなっていることが大きな要因となっており、今後も人口減少が予想される本村では、地域における担い手不足やそれに伴う地域産業の衰退、さらには地域コミュニティの衰退など、住民生活へのさまざまな影響が懸念されています。

これらの課題に対応し、村民の安全・安心な暮らしと地域の活力を維持していくために、仕事づくり、人材育成、教育、出産や子育て支援など戦略的な村づく

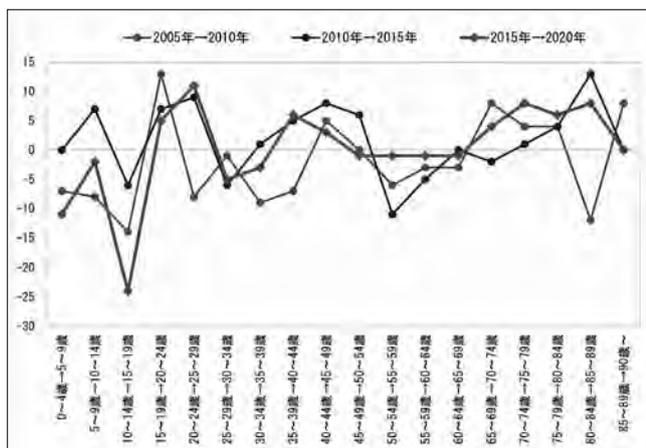


西興部村の位置図

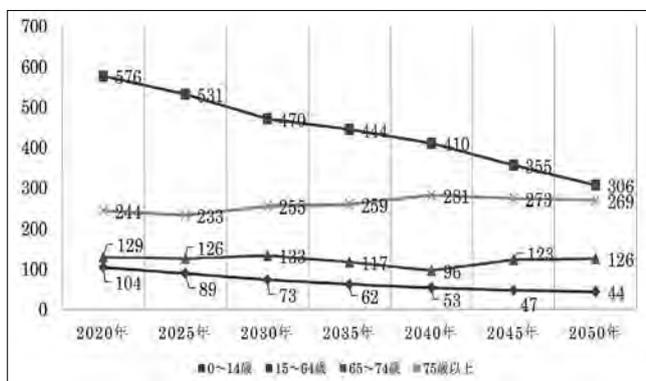
りに取り組むため、第2期総合戦略の評価を踏まえた第3期総合戦略を2025（令和7）年3月に改訂しました。



各推計による将来人口予測



2005年からの年齢階級別の社会動態



年齢層別の人口推移予測（社人研の推計値に基づく）

戦略目標の設定

第3期総合戦略では、国が新たに5年間を計画期間とする総合戦略の策定を推進する方針を示したことから、本村においてはこれまでの流れを絶やさぬよう、第2期総合戦略の基本的な方向性を維持しながら、さらなる人口減少の抑制と地域経済活性化を目指し、戦略の目指す姿を4つの基本目標別に設定しました。

【基本目標1】 一緒に働こうよ、この村で作戦 〈安定した人材確保と雇用創出の戦略〉

指 標	人口社会動態（ただし、18歳以下、福祉施設入退所の転出入は除く）
数値目標	3人（5年間の累計）

基本目標1では、生産年齢人口の減少による産業の担い手不足や地域経済の衰退を防ぐため、安定した雇用創出と人材確保を進め、若者や移住者が定着し、地域資源をいかした新たな産業・雇用の場をつくることで、人口減少の緩和と村の持続的な活力維持を図ることを目標としています。

〈基本的方向〉

- ① 地域資源を活用した特産品の開発支援体制を整備し、特産品の開発と地域の雇用を促進する
- ② 地域企業・産業における人材確保に対する支援の強化を図る
- ③ 起業・事業拡大のための各種支援を展開する

【基本目標2】 いい子育てよ、この村は作戦 〈若い世代の子育ての戦略〉

指 標	年間出生数（当該年度+前2カ年度による3年平均）
数値目標	令和5年度 5人→令和11年度 5人

基本目標2では、人口減少の大きな要因となっている出生数の減少や若い世代の流出に対応し、安心して妊娠・出産・子育てができる支援体制や教育環境を整えることで、若い世代の村への定着と子どもの健やかな成長を促し、将来にわたって村の人口維持と活力の基盤を確保することを目標としています。

〈基本的方向〉

- ① 子育てなどに関する負担感や不安の軽減を図るための交流事業などの展開を図る
- ② 出産と子育てに関する支援体制に充実を図る
- ③ 健やかな子どもの成長を支える環境を整備する

【基本目標3】 あったかいよ、この村は作戦

〈地域コミュニティ形成に向けた戦略〉

指 標	人口社会動態
数値目標	5年間で±0人

基本目標3では、高齢化や人口減少が進む中で、住民同士が支え合い安心して暮らせる地域コミュニティの維持・活性化が不可欠であるため、世代間交流や生活支援、デジタル技術の活用による利便性向上などを通じて、誰もが元気で安心して生活できる環境を整えることを目標としています。

〈基本的方向〉

- ① 地域交流や世代間交流を促進する
- ② 住民が安心して生活できる環境の充実を図る
- ③ デジタルの活用で暮らしの利便性を高める

【基本目標4】 おいでよ、暮らししてみようよ、この村で作戦〈観光振興・移住促進の戦略〉

基本目標4では、人口減少を緩和し地域活力を維持するために、観光振興や移住・定住の促進を通じて外から人を呼び込み、村の魅力を発信しながら多様な人材の受け入れ体制や住環境の充実を図ることで、村に新しい人の流れと活気を生み出すことを目標としています。

〈基本的方向〉

- ① 観光客増、滞在延伸に向けた体制・方策の強化や観光施設の再整備を図る
- ② 移住者の増加と定住促進に向けた体制・方策の強化を図る
- ③ 特色ある景観の形成の充実・定住促進に向けた住環境の充実を図る

取組事例〈事例1／人材確保SNS広告配信事業〉

本村では、地域課題の1つである各事業所における人材不足や人口減少の解消と第5期総合計画の総合目標である「2031（令和13）年度末で人口1,000人以上」、総合戦略の達成に向けて、現在主流となっているSNSを活用し、村の魅力などを広めるための広告配信やYouTuberを活用した動画制作、人材確保と移住・定住を促進する特設WEBページ制作など効率的・効果的な情報発信を行い、地域課題の解決と地域の活性化を図っています。



取組事例〈事例2／西興部村森林公園のリニューアル〉

村の中心部に位置する約30,000㎡の森林公園は、開設から30年以上が経過し、これまでは壊れた遊具を補修しながら運営を続けてきました。しかし、施設の老朽化や時代のニーズの変化に対応するため、2022（令和4）年度から2年間にわたり、約3億円の事業費を投じて全面的な改修工事を行いました。今回の改修で

は、空気半球型に膨らませる「ふわふわドーム」やボルダリング施設、ターザンロープなどの新しい遊具が導入され、子どもたちが安全かつ多様な遊びを楽しめる環境を整えました。また、乗り物遊具やバッテリーカーを3台新たに購入し、幅広い年齢層の利用者が、より快適に過ごせるようにしました。さらに本村には、日本最北となるバッティングセンターがあり、全3打席のうち2打席の投球マシンを最新型に更新し、球速や変化球の種類を増やしたことで、本格的な野球体験が可能となり、残りの1打席はストラックアウトに変更し、球速も測定でき、野球経験の有無にかかわらず誰もが楽しめる仕組みとなっています。キャンプ用テントサイトも改修前の約2倍の広さに拡張、駐車場も増設し、より多くの利用者が快適にアクセスできるようになりました。改修を終え、2024（令和6）年度にリニューアルオープンし、オープン記念イベントの開催や森林公園のPR活動にも力を入れました。その結果、利用者数は大きく増加し、売上は改修前の約5倍となり交流人口も増加し、家族連れや観光客、スポーツ愛好者など、幅広い層が訪れるようになっています。これらの取り組みにより、森林公園は村の新たな交流拠点として生まれ変わり、地域の活性化や賑わいの創出に大きく貢献しています。今後も村の魅力を高める重要な施設として期待されています。



森林公園（ボルダリング）



森林公園（日本最北のバッティングセンター）

おわりに

本村は、2025（令和7）年1月1日に開村100周年という大きな節目を迎えました。これまで村を支えてきた先人たちの努力と、地域の皆さんの協力によって、村は発展してきました。人口減少や高齢化など先送りできない課題がある中で、これまでの歴史と伝統を大切にしながら、村民・事業所・議会議員・職員など地域の関係者と積極的に対話を重ね、力を合わせて課題解決に取り組んでいきます。そして、総合計画で示された「2031（令和13）年度末で人口1,000人以上」という目標の実現に向けて、開村100周年を未来への新たなスタートと位置づけ、持続可能な村づくりを地域一体となって推進していきます。これからも、次の世代へと村の魅力や活力を繋いでいけるよう、歩み続けます。



森林公園（ふわふわドーム）